

# 人気力士登場に沸き立つ会場



1 日馬富士（手前）と鶴竜の横綱対決は寄り切りで鶴竜が粘り勝ち 2 日馬富士の土俵入りに視線が集まる 3 西方「三役揃い踏み」の場面

取組前には、子どもたちが人気力士に稽古をつけてもらう「ちびっ子相撲」が行われ、市内の小学生28人が参加。大きな力士に立ち向かう子どもたちの姿に、声援や温かい拍手が送られました。

続く幕下、十両の取組後、華やかな化粧まわしを締めた幕内、横綱の土俵入りが行われると、場内は一層の沸き立ちを見せました。幕内の取組が始まり、人気力士が土俵に上がると、ひときわ大きな声援が飛び、お気に入りの力士の名を叫ぶ声も。秋場所初優勝し、注目を集める豪栄道は琴奨菊と対戦し、粘りを見せるも寄り切られ負け。結びの一番は、秋場所千秋楽と同顔合わせの日馬富士と鶴竜の取組となったものの、この日は寄り切りで鶴竜が勝ちました。人気力士の勝った負けたに観客は一喜一憂、場内は大変な盛り上がりを見せました。

この他、地方巡業独特のお好み（催し物）として合間で、力士5、6人が輪になって1人ずつで歌われる力士独特の唄「相撲甚句」や、禁じ手などをユーモラスな動きで紹介する「初切」、髪結いの実演などが行われ、会場は和やかな雰囲気になりました。

## 成功に向け市民の力 集結

匠瑛場所に向けた3、4日の会場準備には、延べ約200人がボランティアとして参加しました。

土俵の設営は3日午後から始まり、養生シートの敷設や、土台となる外枠と緩衝材を搬入・設置。4日には座席の区画割や番号の表示、記念座布団の敷き詰めなどに全員が協力して取り組みました。設営会社の担当者が「これほど多くのボランティアが協力した場所はない」と話すなど、匠瑛場所の成功を願う市民の力を表す形となりました。

匠瑛場所当日、弁当引き換えのボランティアに参加した大木幸恵さん(高野)は「いろいろな団体の人たちと仕事ができて楽しかった。これからもボランティアの機会があれば参加したい」と振り返りました。



◀一輪車を使って土俵を覆う約8tの土を搬入  
▼「タタキや」タコといった道具で表面を仕上げている



▲座席作りにも楽しんだ様子で作業を進めるボランティア

▶俵が丁寧に埋め込まれていくと土俵の完成は間近



土俵完成後に行われた「土俵祭」。土俵を清め、場所中の安全と興行の成功などを祈った



## 力士と稽古 大きき実感

取組前に行われた、小学生による「ちびっ子相撲」。まわし姿に緊張した様子の子どもたちは、土俵に上がると3人がかりで遠藤などの人気力士との稽古に挑戦。小さな体で力士にぶつかっていく姿に大きな声援と拍手が送られました(=写真)。

稽古に参加した野田小3年の清野祐矢君は「相撲取りの圧力がすごかった。ま

わしをして本物の相撲取りになったようだった」と話し、同小3年の松田優輝君は「後ろから押すつもりだったけど、大きかったし強かった」と満足げ。豊栄小の緒岡瞭太君(4年)と勝股怜音君(2年)、河端耕助君(1年)は、「緊張しなかったけど思い出になった」と声をそろえました。



合間で行われた地方巡業ならではの催し。【上左】禁止手などをユーモラスな動きで演じ笑いを誘う「初切」【上右】「相撲甚句」では力士が自慢の美声を披露【下】“テテン、テテン”と軽快な音色を場内に響かせた「太鼓打ち分け」

